

## 「2017年3月期第2四半期決算」説明会

## 主な質疑応答

1. ポートフォリオマネジメントの進捗具合はどうか？現在進めている事業構造改革の影響額を営業利益等によって定量的に評価できないか？
  - ・ 事業性に懸念のある事業（SBU）については、2年以内（2017年度末まで）を目途に、再生・再編を図るべく構造改革プランを策定・実行中である。
  - ・ 先日開示したIHI建機株式会社の全株式の外部譲渡も含め、現時点で1/4程度まで進捗した。これらの事業構造改革はプラスとマイナスの両面があるので、営業利益等による単純な定量的評価はできない。
  
2. 上期におけるセグメント別の受注工事損失引当金計上額は？
  - ・ 総額は約322億円であり、事業領域別内訳は以下の通り（1億円未満切り捨て）。
    - ・ 資源・エネルギー・環境：78億円
    - ・ 社会基盤・海洋：235億円
    - ・ 産業システム・汎用機械：6億円
    - ・ その他：1億円
  
3. 向こう2～3年の税率は？
  - ・ 今期と来期が30.86%、2018年度はそれよりも若干下がると想定している。
  
4. 社会基盤・海洋事業領域の不採算案件による上期の悪化額は200億円程度のイメージか？下期の悪化想定額は？
  - ・ F-LNG・海洋構造物事業の3プロジェクトにおいて、上期で約220億円の悪化。これは、現時点で見通すことのできる最大限のコストを織り込んだ結果であり、下期にこれ以上の悪化が生じることは想定していない。
  
5. 航空・宇宙・防衛事業領域の営業利益について、上期が315億円の実績に対して、下期は45億円の予想。なぜこのように大きな差が生じるのか？また、来期の利益水準のイメージは？
  - ・ 上期はスペアパーツの利益貢献が想定以上であり、下期もこの状況が続くことを期待しているものの、これは市場に因るものなので、楽観視しない見通しとしている。
  - ・ また、上期に想定していた、販管費の発生や、利益貢献度合いが少ない量産初期段階のエンジンの売上が、下期に一部ズレたことによって、下期の営業利益予想は上期の実績に対して低い水準になっている。
  - ・ 今期から来期にかけては、当初から説明しているように、新エンジンの生産が急速に拡大する時期なので、収益面では踊り場となることを覚悟しており、楽観的には考えていない。

6. 航空機の機体ビジネスにおいては価格競争が激しく、価格プレッシャーが厳しいと聞いているがエンジンビジネス、特にスペアパーツの分野にもそのような影響があるか？

- ・ 機体とエンジンは別のビジネスなので直接的にはない。
- ・ 一方で、エンジン分野では、長期にわたる包括メンテナンス契約等のエンジンサービスに関する多様なメニューを用意し、コスト面に敏感なお客様のニーズにも対応できるようにしている。

7. ターボチャージャー事業について、採算性が悪化していた状況から改善が見られているか？将来的な営業利益率の水準は？

- ・ 欧州で立ち上げた工場における低い生産性に苦勞していたが、最近では、正常な水準まで回復してきた。
- ・ 現在は、これまで構築してきたグローバルネットワークを最適に運用すべく、様々な施策を展開中である。
- ・ 本事業に対しては、「グループ経営方針 2016」における IHI グループとしての目標営業利益率である 7%を、中長期的には大きく上回るよう、指示している。

以上